

## 令和3年度 倫理審査委員会の記録概要

開催日時：令和3年5月25日(火) 16:30～17:00

開催場所：独立行政法人国立病院機構菊池病院 会議室

出席委員名：渡邊院長、竹之内看護部長、伊藤事務部長、飯田弁護士

審議事項 申請番号 3301

【課題名】 性別、職位、属性、ワークライフバランスが精神科に勤務する看護師の主観的幸福感に及ぼす影響

【申請者】 滝本 多恵 菊池病院看護師

【概要】

- ・目的：バブル景気崩壊後以降に労働ストレスに注目が集まり、労働者のストレス問題やバーンアウト問題、うつ、不安などの病気の人が対象のネガティブな側面の研究に焦点が当てられていた。一方、ポジティブな側面での注目は病気の対象だけでなく健康状態の維持にも応用が広く適応できる。今後主流となるポジティブな側面である主観的幸福感の研究は必要性が高いと思われる。Umは講演の中で看護師が幸せにならなくてはいけないのはなぜかという問いに対し「看護師には入院患者のためにプラスの患者体験を生み出す責任があります。不健康な看護師に患者のケアはできないのと同様に、幸せでない看護師に患者を幸せにすることはできません。従って、患者を幸せにするためには、まず看護師自身が幸せでなくてはなりません。」と述べており、看護師の主観的幸福感を高める必要性は高いと思われる。また、本島らは主観的幸福感とワークライフバランス（以降WLBとする）の関係性について「WLBに満足している者は『主観的幸福感が高い』」と考察しており、また生活の一部である仕事は主観的幸福感に影響しているという既存の文献があり、看護師の仕事に注目することは主観的幸福感に影響しているため主観的幸福感とWLBの関連性は高いと思われる。

- ・対象及び方法

【研究対象】 国立病院機構（NHO）精神科病院に従事する看護職員

【分析方法】 無記名によるWeb質問調査（Google フォーム）を行い、IBM SPSS Amos26にて分析を行う。

【インフォームド・コンセントのための手続き及び方法】 研究協力は研究協力者の自由意志により決定し、拒否できることを補償すること、研究協力を断ることによる不利益をもたらさないこと、プライバシーや個人情報の保護に十分配慮し、研究協力による負担や不快への配慮を行う。調査票の回収をもって研究への同意と判断する。研究結果の公表時は施設や個人が特定されないことがないよう配慮を行う。

【診療情報の匿名化】 無記名による調査であるが、回収した回答データはルーテル学院大学内の和田研究室にて鍵付きの保管を行い、修士論文完成（2022.2

下旬)をもってシュレッターにて破棄し個人情報の保護に務める。収集したデータはエクセルシート形式で保存しルーテル学院大学の規程により 10 年間保存する。

- ・実施場所および実施期間

場 所：各病院内各配属部署

期 間：令和 3 年 6 月～令和 3 年 9 月

- ・人間を直接対象とした医学研究および医療行為における倫理的配慮について

- ・医学研究および医療行為の対象になる個人の人権の擁護

自由意志による参加、参加中断の自由を保証する。

無記名による Web 質問調査 (Google フォームを使用した質問調査) であり、苦痛を伴うような質問は含まれていない。

看護職員を対象とするものであり、医療行為の対象になる個人の人権を侵害する恐れはない。

- ・医学研究及び医療行為の対象になる個人の利益と不利益

不利益は特にない。

質問紙への回答や統計的に処理した研究結果のフィードバックにより、自分自身のワークライフバランスや幸福感についての振り返る機会を得ることが挙げられる。

- ・医学的貢献度

看護師の主観的幸福感はケアの質にも影響を与える。患者をケアする看護師自身が幸せでないと患者も幸せにすることができないため看護師の主観的幸福感を高めることは患者ケアの質の向上に寄与すると考える。看護師の主観的幸福感を高めるためには、主観的幸福感に影響を与えている要因を特定する必要がある。本研究は、看護師の性別、職位、属性、ワークライフバランスのうち、どの要因が看護師の主観的幸福感に影響を与えるかを明らかにしようとするものであり、その研究成果は看護師の主観的幸福感を向上させるための一助になると考えられる。

- ・医学研究及び医療行為の対象になる個人に理解を求め同意を得る方法

質問紙の表紙に、研究の目的や倫理的配慮について記載し、Web 質問調査の参加をもって、同意を得られたものとする。

【判 定】 承認